

にとっての地域や保護者との関係性が異なることが影響している。公立だと学校区という通学区がある程度、決められているが、私立であるとかかなり広い範囲から通園して行くので、「地域」という考え方が馴染みにくい。また、保護者は授業料を払っている分のサービスを園に求めるような感覚があり、園のためにボランティアをするという感覚が乏しい傾向がある。こういったなかで、ボランティアとして学校関係者評価委員などを依頼しにくい現状がある。ただ、今後は保護者が幼稚園に親近感をもてるように、そして、保護者や地域と密着した関係を築いていくことが必要だと思う。園や園長としての努力が足りないかもしれないので、来年度以降は、努力目標として、保護者や地域との連携を進めたい。

学校関係者評価については、幼稚園単独では行われていなかったが、短大の理事会で附属高校等とともに、評価が行われていた。

学校関係者評価委員は合計5人で、構成は以下の通りである。

- ・短大の先生（1人）
- ・園のPTA会長でS短大のコミュニティーカレッジで事務局をしている方（1人）
- ・S大学の附属幼稚園の先生から短大付属高校の非常勤の先生になり、今もB幼稚園に実習生をつれてくるので、保育についてよく理解している人（1人）
- ・PTAの役員（2人）

3) プログラムの実際

園長先生がガイドブックを熟読し、できるだけプログラムに沿って学校関係者評価を実施した。

第1回目 9月4日 12:30~14:00

幼稚園の概要を説明し、幼稚園の施設を見学していただいた。学校関係者評価委員の方々に幼稚園のDVDを見ていただいた上で、B幼稚園の教育目標、教育方針について説明を行なった。アンケートを実施した。

第2回目 10月30日 12:30~14:00

学校評価についてのDVD視聴とアンケートを実施した。

第3回目 12月18日 12:30~14:00

「幼稚園」「学校評価」のガイドブックを再度、みていただき、アンケートを実施した。

第4回目 2月4日~2月15日

委員会は開催しないで、PTA役員18名にアンケート（B園の自己評価表と同様の内容）を送付し、回答していただいた結果に、B幼稚園の自己評価結果を添えて、学校関係者評価委員にみていただき、評価をしていただいた。

学校関係者評価委員会では最初に、学校関係者評価の意義や目的等を十分に評価委員に伝え、プロジェクトからの依頼文も見せたが、やはり、口頭による説明だけでは、学校評価の意義や目的、内容、自らの役割などを十分には理解できなかったようだ。

教材も、DVDの時間が長い、次から次へとスライドが移ってしまう、終わったころにはも

う覚えていない等の課題がある。だから、ハンドブックは内容を振り返るためにも有効だと思う。DVDを自宅へ持ち帰ることを可能にしても、インターネットなどで配信しても、内容が面白いものでもないので、主体的に自宅で再度、視聴する委員は少ないのではないかと思う。

4) プログラム実施中に生じた課題

学校評価が、子どもに優劣をつけたり、序列をつける評価と混同される面もあった。評価委員はいわゆる幼児教育の評価における成果や成長についての問題はわかるが、学校評価そのものの意味が理解できていないようだった。まだ、「評定」と「評価」の混同があるようだ。園長先生はB幼稚園に12年いるが、ずっと以前には評定のことを頭において評価を議論している時期があった。幼児教育における評価の問題は一般的には、とてもわかりにくく、難しい点がある。優劣をつけたり、数値で序列をつけたり、枠に入れるというのは問題だということはわかる。学校評価との混同について学校関係者評価委員に説明したが、理解が難しいようだった。

5) 今後のプログラムの改善

学校関係者評価委員から教材やプログラムに関する意見を収集し、以下のようにまとめた。教材に関しては、DVDの時間が長すぎる、また、スライドがどんどん流れてしまうので、立ち止まって考えられないという意見があった。ハンドブックはわかりやすくよかったと思う。

保護者も短大関係者評価委員も制約された時間のなかで出席している。したがって、実施者側も時間の制約のなかで、学校関係者評価を実施している。今回は、5人ともB幼稚園のことを知っていたので、限られた時間の中でも評価ができたが、DVDの時間は長すぎるという印象だった。ただ、前向きな意見としては「もっと詳しく、動画で編集されればわかりやすかったと思う」というものであった。つまり静止画ではとびとびなので、動画のほうが連続でより分かりやすいと思う。この意見は学校評価に前向きな意見といえる。「もう少し詳しく」というのが、感想のなかにあった。時間のことは念頭になかったようだ。時間は多少かかっても、わかりやすいほうがよい。「分かりたい、分かって回答したい」と思える委員がいた。

「幼稚園を知る、評価の意義を知る」という意味で、視覚的な解説資料があったほうがいい。保護者の実態をみると、幼稚園教育や学校評価に関して不慣れな人もいると思うので、教材は特に必要だ。今後、保護者以外の地域住民のいろいろな立場の方、たとえば地域の自治会長等へと委員の依頼範囲を広げていくと、「わからない。もっと詳しく知りたい」といった声が増えてくるのではないかと思う。だから、視覚的な教材と解説資料は絶対に必要だと思う。

プログラムも学校関係者評価委員会の前に2回するのが精一杯である。これ以上、回数が多いとできない。回数はちょうどよいのではないかという意見だった。

6) 組織としての園の体制や教職員の変化

学校関係者評価は園長先生が推進した。他の先生方は学校関係者評価を理解し、前向きに取

り組んだ。

7) このようなプログラムに今後も参加してもよいと思うか。

学校関係者評価委員の立場からいえば、参加するのは負担が大きいと思う。ただ、幼稚園運営に関して有益であることを実感すれば、積極的に手を上げると思う。単なるお手伝いは敬遠されるのではないだろうか。

8) その他

学校関係者評価についての情報や学校教育法の改正などから、学校評価の話は現場にはいつてきていた。しかし、私立幼稚園では、一般的には学校評価の手続きは要らないという考え方があった。園児数をみればどう評価されているのかが分かるという考え方である。園の経営は幼稚園に入園する際に保護者の要望を口頭で聞いたり、筆記してもらい、それに沿うように改善をしていけばいいと考えている園の管理職は多い。私立園は主導性というより、保護者の要望に沿う形で幼稚園を運営していた。その当時はそういう意味での評価はできていると思っていた。このプロジェクトに参加することになり、説明会が開かれたときに、ある園長が言ったように「これを勉強の機会としたい」と思った。すぐに、望ましいやり方で取り組めるかどうかは別として、まずは勉強しようという思いがあった。

いろいろと課題は多いが、この事業に対して全部肯定的な姿勢だった。

資料 学校関係者評価の実施者の意見（B幼稚園園長による聞き取り）

1. 理解が困難であったこと

- ・保護者にとっては聞きなれない言葉が多く全体的に理解困難であった。DVD「学校評価とは」は特に難しかった。
- ・当該幼稚園を念頭において回答するのか、幼稚園一般を念頭において回答するのか迷った。
- ・自己評価報告書だけでは評価できない。他の幼稚園の実態を知らなければ客観的にみることができないから。
- ・DVD「学校評価とは」はもっと平易に説明してほしかった。難しかった。
- ・詳しい手引きがあったので大変理解しやすかった。

2. 調査項目への回答時に困ったこと

- ・子どもが通う当該幼稚園に関する項目には自信を持って回答できたが、教材や評価の仕方等に関する項目は回答困難だった。
- ・DVD視聴後、少し時間がたつと内容を忘れ、回答項目によっては思い出せないことがあった。
- ・幼児教育においては、「評価」という言葉ではなく、「教育の成果」、「成長」を表現する適切な言葉・用語はないのか。
- ・評価委員に「学校評価」の意義を理解してもらっていたのでスムーズに回答してもらった。

3. DVDやそのハンドブックの編集内容の問題点

- ・学識経験者外の者にも理解できるような説明を工夫してほしい。
- ・「幼稚園」「学校評価」ともわかりやすくまとめてあった。
- ・DVDはもっと詳しく、しかも動画で編集されればわかりやすくなると思う。
- ・今少し分かりやすい内容で、分かりやすい説明がほしい。
- ・口頭による説明が多く抽象的で分かりにくい。場面に即して具体的な映像を盛り込めば分かりやすくなるだろう。
- ・「幼稚園」「学校評価」ともわかりやすく、職員研修の教材として使った。

4. 参考になったこと

- ・幼稚園教育の特質をいくらか理解できた。
- ・DVDの内容は幼稚園教育を知らない方にとって、その概要を知る補助教材として役立つのではないか。
- ・2つのDVD、ハンドブックは丁寧かつよく整理されていて頭にスーっと入ってきた。学生の補助教材としても使えるのではないか。
- ・視点や項目が優れていてすっきり整理できた。

5. 感想

- ・調査の目的が今一つ分からないまま参加したので、正しく回答できたか分からない。
- ・評価が子どもにどれだけ還元できるかが今後の課題だろう。広い視野で教育できるようになればいい。
- ・評価活動が保育活動の時間や教材研究の時間を圧迫するなど、教員を追い込まないようにしなければならない。
- ・学校評価の取り組みは必要だと感じたが、学校関係者評価はその前提として、評価委員がベースとなること（知識、情報など）を共有しておくことは適切なことだと思う。
- ・評価の視点を数字や表面的なものに限定してしまうと、幼児教育の本質や良さが評価できない懸念がある。学校関係者評価委員の幼児教育に対する理解度によるのだろうか。今回のDVD視聴程度では不十分と思う。
- ・学校関係者評価委員の立場がどんなものかよくわからなかった。
 幼児の特性や幼児教育の教育方法、内容を考えると人間関係や心の育ちなど人間性に関する部分を拾い上げて評価できるようにしてほしい。
- ・よい経験をさせてもらった。為になった。

(まとめ 園長先生)

(岩立京子)

③ C幼稚園

調査日時：平成22年1月26日、13：30～15：00

調査場所：C幼稚園

調査協力者：C幼稚園園長

調査実施者：松本純子・福元真由美

1) プログラムへの参加の印象

C幼稚園園長は全日本私立幼稚園連合会の教員研修部門の委員を務めており、その関係で他の幼稚園の園長先生より学校評価プロジェクトの話をうかがっていたそうである。このためプロジェクトにもできるだけ協力したいとお考えで取り組みに参加して下さった。以下、インタビューの要約である。

最初に学校評価プロジェクトのプログラム内容を聞いたときは、「もっと簡単」かと思われたが、実際に実施してみるとそうではないと感じられた。学校評価について事前に知識を持っている園長のような管理職がガイドブックや教材に目を通し、理解するのならばさほど「苦にはならない」だろう。けれども、学校関係者評価委員（以下、評価委員）に教材を視聴、読解してもらい、アンケートに回答してもらうのは「負担」をかけると思われた。教材の内容について、評価委員は関心を持ち理解を示してきてくれたようだ。けれども評価委員の中には、「(今回の研究やプログラムのような) アンケートや教材をやるなら、来年は(評価委員をやめようかな)」という方もいらした。幼稚園の元教職員や保護者ならこれらの作業は苦にならないかもしれないが、地域の方には負担感があるのではないかと感じられた。

2) プログラムの実施のための体制づくり

学校評価プロジェクトのプログラムに参加する前年より、同園では学校関係者評価を実施していた。同園の評価委員の任期は2年であるため、今回のプログラム対象の評価委員は同園の学校評価の経験者となる。評価委員の構成は次の通りである。

現在のPTA代表（1名）、卒園児の母親代表（1名）、地域関係者（幼稚園の学校評議員を兼務）（2名）、元職員（1名）、子育て支援カウンセラー（1名）、大学教授（幼児教育専門）（1名） 計7名（このうち、アンケートの回答を依頼したのは5名）

評価委員の選出の基準としては、次のことに考慮した。

- ・日ごろから幼稚園や幼児教育に興味を持っている人（幼稚園にまったく関心のない人ではない）
- ・幼稚園に直接来ることができ、園長等より説明を聞いて行事や保育の様子を参観できるような時間を取れる人。時間的に融通が利くという点では、「会社員」よりも「自営業」や「経営者」の方がいいように思う。
- ・評価委員の「分野」（立場など）をある程度分けること

実際に評価委員になることをお願いした時は、「よくわからずに引き受けた人」や「小学校で学校評価に関わっていた人」もいて、学校評価に関する関心や知識が事前にあった人となかった人は「半々」くらいという印象である。評価委員の選出で苦勞した感じはあまりなく、評価委員を「みんな快く引き受けてくれた」。けれども、「はじめは仕事内容をあまり知らずに引き受けて、やってみてそうか（結構大変だ）と思われた人もいるのでは」と思った。今回の

評価委員が「来年も引き続き（評価委員を）やってくれるかどうかは、（今回のプログラムがどう受け止められたかを判断する）鍵」になるだろう。

3) プログラムの実際

同園における通常の学校評価は、年2回（春～8月の時期と翌年の1,2月の時期）である。このため、今回のプログラムにおいても「あまり（学校評価に関する集まりの）回数を増やせない」と考えた。そこで、プログラムの実施を大きく次の2回に分けて進めることにした。

①第1回学校関係者評価委員会の開催

評価委員全員に集ってもらい、下記の次第にそって委員会を進行した。

- ・日時 平成21年8月31日(月) 18時30分～20時
- ・ところ C幼稚園職員室
- ・会議 1 開会
 - 2 理事長挨拶
 - 3 議事
 - (1) 平成20年度学校関係者評価報告書について
 - (2) 幼稚園の状況及び平成21年度重点目標について
 - (3) ビデオ研修「どんなところ？幼稚園」
 - (4) 平成21年度関係者評価委員会の今後の進め方について
 - (5) その他
 - 4 閉会

配布資料 「平成20年度 C幼稚園 学校関係者評価書」「評価項目」「平成21年度の重点的に取り組みたい目標」「全員参加による教育課程の編成 教育目標を軸として教育課程を見直す (Benesse次世代教育研究所『これからの幼児教育を考える』2009秋に掲載された記事)」

②保育や行事等の参観の際に、適宜評価委員にDVD「学校評価とは」を視聴してもらい、説明する機会をつくった。

例えば、もちつきの行事に来ていたある評価委員には、その後お願いして残ってもらいDVDを見てもらった。参観の際には、保育や子どもたちの様子がわかるカラーの写真と説明入りの園だより「きらり☆みつけた」や「農業体験のらびと」などを配布し、評価委員の実践に対する理解の手がかりとなるようにした。

4) プログラム実施中に生じた課題

特に実施中に問題が生じたようなことはなかったが、評価委員より「こんなに大変」なのかという感想があった。評価委員会の仕事が大変というよりも、プログラム実施に伴う「作業自体が大変」という様子である。評価委員の中には繰り返しアンケートが行われるので、「また同じような」という印象を述べた人もいた。昨年、同園で学校評価を行った際には、行事や好きな時に園に2回来て参観してもらっていて、アンケートの回答などはなかったことも関係し

ているだろう。けれども、園としてのプログラムの進行については「大丈夫」と思っている。

5) 今後のプログラムの改善

DVDは本とは違って映像（画像）なので、評価委員も内容に入りやすいと思う。教材には、「個人情報の問題もあって実際の子どもを映す、動く映像は入れられないかもしれない」が、あるとより理解しやすくいい。DVDは聞き取りやすい話の仕方でよかったし、内容もよくわかっている人が作っているように感じられた。けれども、「学校関係者評価委員の方にそこまで必要か、（内容として）難しいところもある」ように思った。内容をもう少し精選して「そぎ落としてもよい」のではないかと感じている。

「どんなところ？幼稚園」については、幼稚園はどのようなところかわかる内容になっている。DVDを視聴した地域の評価委員からは、豊田幼稚園はDVDの内容に沿った保育を行っていると思うが、園によっては「困ってしまう」ところもあるかもしれないという指摘があった。DVDの内容と比べて「うちの園は違うと思う私学もある」だろうとのことである。

「学校評価とは」は教材として上手にまとめてあると思うが、どちらかといえば「学校評価とは」の方が難しいという印象である。耳から言葉が入ってくる時に「学校関係者評価委員」という言葉が繰り返され、難しく感じられる。幼稚園のことだけれど「学校関係者評価」という語で、漢字をならべて長いので視覚的にも難しく感じられる。たとえば、スライドで「学校関係者評価委員の役割」とあれば、「学校関係者評価委員の組織」「学校関係者評価委員の仕事」「学校関係者評価委員の心構え」と一つ一つ「学校関係者評価委員」を示さずに、「組織」「仕事」「心構え」だけの表記でよろしいのではないだろうか。

「どんなところ？幼稚園」は、前半は「そうそう」とわかりやすく見ることができるが、後半の運営や組織作りが「ぱっと理解するのが難しそう」だった。時間も後の方ということもあるだろう。幼稚園の特徴については、ふきだしの内容もわかりやすかったと思う。

今後これらの教材を普及させるならば、2つのDVD、ハンドブック教材を1つにまとめてしまっただろうか。両方で今回の1回分くらいの分量で考えて普及版にするとよいのではないだろうか。今回のDVDは全体の3分の2位までは見るが、残り3分の1位は早めて見てもよい感じがする。学校関係者評価委員会では、他にも園の状況や特色、重点目標などの話をする必要があるので、このための時間も確保したい。

また、今後より教材を使いやすく、負担感をなくすためには教材の性格を明確にすることも必要である。教材は、評価委員の初心者用として初回に見るのみにするのか、毎年の評価の際に継続的に組み込むことにするのかによって、教材の作り方は違うだろう。今回の教材を幼稚園でもらった場合、評価委員を継続する人にはDVDの視聴を省略し、初めて評価委員になった人には別の機会に視聴してもらうようにすれば、学校関係者評価委員会の進め方はこれまでどおりのやり方でやれると思う。

評価委員を継続する人にも、何年かに一度は幼児教育の現状を理解してもらうのにも見てもらうのもよいかもしれない。幼児教育のあり方が変わって、新しいものが加わったときにもう一度見てもらう方がよいだろう。評価委員の大学の先生に見てもらうのはためられたが、DVDは視聴していただいた。

いまの学生や若い人には教材の映像も入りやすいだろうが、年配の人にとっては紙面を繰り返しめくり、見たいところを見ることができるという点で、紙ベースのテキストも有効だと思う。紙の方がとつきやすい人もいよう。今回のプログラムでは、最初ハンドブックが1部しか送られてこなかったため、評価委員には「あとで渡す」と伝えて年末に1人1部渡すことになった。

ガイドブックについては、自分も学校評価については詳しくはないが、学校評価の本作りにも関わった経験から普通くらいの知識はある中で読んだ。このため、「そうだな」と納得しつつ読んだ。けれども、それぞれの幼稚園の「独自性」もあるので、「このようにいかないこともあるかも」と思う。学校評価をはじめて行う園にとっては、ガイドブックを読んで「このようにしよう」とためになるのではないだろうか。

学校評価は実際に自分たちでやってみないと、「どういう形であってもやってみることが大事」だと思う。その時の「手立て」「案内」があることは大事だと思う。

6) 組織としての園の体制や教職員の変化

今回の学校評価プロジェクトへの参加については園の先生には周知しているが、DVD、ハンドブック、ガイドブックについては見てもらうということはしていない。けれども、今回の教材を現場の先生たちが「専門職として」見るということは「意味がある」と思う。なかなか時間がないが、春休みのような時期に先生が見る機会を作るのも一つの方法だと思う。

園としての変化については、2月頃に学校関係者評価委員会を開いた時に違いが見られるかどうかだと思う。このため、12月に評価委員会を行うのは早いと判断したために、2月の開催にさせてもらった。変化や効果は2月にならないと明らかになりにくいだろう。

7) プログラムの効果

現場の先生にとって、今回のDVDやハンドブックの教材を用いて研修することは、幼稚園教育や学校評価についての理解を深めるためにも有効だと思う。先生も、これらの教材を理解している評価委員が園に来ることがわかっているならば、自分たちの保育のよい刺激になるだろう。学校評価について、教職員がどのようなものか知っておくことも大切である。

8) このようなプログラムに今後も参加してもよいと思うか

9) 実践研究への動機づけ

今後も、もちつもたれつで大学の研究にはできる限り協力させてもらいたいと思う。

10) その他

DVDは、それぞれの園で見ってもらうよりは初任者研修で見ってもらうのもよいのではないだろうか。例えば、2月位のまとめの時期に幼稚園とはどんなところかを改めて考える上でも、教材はうまくまとめてあるので活用できると思う。

(福元真由美)

5. 学校関係者評価の実施事例（事例報告）

(1) D幼稚園

学校関係者評価委員会報告（設置から実施まで）

①はじめに

当園では、この調査依頼が来るまでは学校関係者評価に取り組んでおらず、また自己評価についても意識的に行ってはいなかった。

今回この依頼が来て初めて手探りで取り組んでみたというのが正直なところで、近隣の園の様子を聞いてみても同じような状況のようである。ある機関の研修会やその他で、自己評価をやらなければならないことは知ってはいるが、どのようにすればよいかわからないという園長先生方も多いようである。

②園の概要

D県東北部のS町(人口約21,000人)にあり、町の中心からやや外れた田園地域に近い住宅街の一角に位置する。最近、近くに大型ショッピングセンターができるなど開発が進められつつある。

定員280名、在籍209名。在籍者の約1/2が地元のS町から、残りの3/5がK町から、2/5がその他近隣の市町からきている。ここ10数年園児減少が続いていたが、K町の公立幼稚園が5園から2園に統合された影響で21年度は増加。K町には私立幼稚園はないが、私立志向の方も多く以前から大勢が当園に入園している。

保育の形態は、自由に活動する場面もあるがどちらかというと一斉活動が多い。

平成17年4月から保育園(0～2歳対象・定員20名)を併設。保育園からは、ほぼ全員が幼稚園に入園している(幼稚園に入園させることを前提に当保育園に入所の方がほとんど)。保育園は年々入所児が増え、今年は4月から満所の状態である。

③学校関係者評価委員の人選について

年度途中ということもあり、急なことだったのでガイドブックに示される構成員を参考に声をかけやすい方をお願いした。

- ・学園の評議員 … 元小学校長で卒園児の祖父(近所の小学校の学校評議員もしている)
 - ・地域住民代表 … 民生委員であり、保育園の第三者委員の方2名
うち1名は卒園児の保護者
 - ・保護者代表 … 前年度と今年度の父母の会会長
- 計 5名

④学校関係者評価委員会実施までの流れ

5月下旬 … 上記5人の方に評価委員を依頼

〈送付資料〉

- ・依頼状
- ・就任承諾書
- ・「学校関係者評価委員の研修のあり方に関する研究」(概要)

☆ この間、今年度の重点目標等の検討

既に計画済み、あるいは実行可能な項目に絞り込んだ。

取り急ぎ、職員には諮らずにまとめてしまった。

7月中旬 … 第1回学校関係者評価委員会を予定していたが延期になる
(手違いにより、研修DVDが届くのが夏休み直前になってしまったため)

9月7日 … 第1回学校関係者評価委員会開催

〈配付資料〉

- ・次第
- ・「学校関係者評価委員の皆様へ」(岩立先生からの文書)
- ・学校関係者評価委員名簿
- ・「学校関係者評価委員の研修のあり方に関する研究」(概要)
- ・ハンドブック「どんなところ?幼稚園」
- ・平成21年度重点目標
- ・学校関係者評価委員用チェックシート

〈参考資料〉

- ・沿革
- ・平成21年度幼稚園説明会資料
- ・入園のご案内(パンフレット)
- ・平成21年度未就園児教室のご案内

〈回覧資料〉

- ・教育課程、月案

○委員会の様子と感想

- ・私自身がメンバーの顔ぶれを知っていたのと、流れをよく確認せずに始めてしまったため、自己紹介をせずに進行してしまった。
- ・そのせいもあってか、趣旨説明からDVDの視聴、園運営について等を説明する間は委員の方々に緊張が見られた。
- ・DVDは熱心に視聴していた。内容が盛り沢山だったのでどこまで理解できたかは不明であるが、視聴を終えた後にハンドブックを見直して確認する姿が見られた。
- ・パソコンで再生したのだが、少人数だったのでプロジェクターは使用しなかった。
(子どもの声が混じり、聞き取りにくかったようだ)
- ・DVDは、幼稚園教育のスタンダードモデルの説明であったため、私立幼稚園の場合これを基本にして私学の特色がプラスされているという注釈を加え、入園説明会で話す内容を説明した。
- ・保育参観になると、子どもたちの笑顔を見て緊張がほぐれたようであった。
- ・チェックシートへの記入を無記名でお願いしたが、遠慮があるのか良い感想しか書かれなかった。
- ・昼食は園のPRの意味も込めて保育園の厨房から提供した。

保育園の厨房給食は、幼稚園の子どもたちにも1クラスずつ順番に提供している。
しかし厨房の規模が小さいため学期に2回ほどしか提供できないのが残念である。

○説明した内容(未就園児保護者向け説明会の内容に準じた)

- ・園の沿革
- ・教育目標、主な保育内容、諸費用等
- ・今年度の重点目標や取り組んでいる事柄として、安全面で防犯カメラを増設したこと、怪我防止のため廊下のベンチコーナーの角を丸めたこと、職員の研修への参加状況等

10月29日 … 第2回学校関係者評価委員会開催

〈配付資料〉

- ・ 次第
- ・ ハンドブック「学校評価とは？」
- ・ チェックシート

〈参考資料〉

- ・ 献立についての給食業者への要望書（写）
- ・ 個人面談での質問・要望に対する回答（保護者宛手紙）
- ・ 新型インフルエンザに対する園の対応について（保護者宛手紙）

○委員会の様子と感想

- ・ 前回から2ヵ月弱で、しかもこの間に運動会や園児募集が重なり、準備不足は否めなかった。
- ・ DVDは、内容が学校評価そのものについてということもあり、真剣に視聴していた。（前回の反省から外部スピーカーを繋げた）
- ・ 時間的にもちょうど良く、内容もポイントが絞られていたように思う。
- ・ DVDを視聴して、改めて当初に立てた重点目標・自己点検項目は詰めが甘いことに気づいた。
- ・ 改めて自己紹介を行ったのだが、2回目ということもあり委員同士が互いに打ち解けた雰囲気であった。
- ・ 前は様子が分からず質問などもほとんどない状況であったが、委員の一人(小学校長経験者)からの障害児の扱いについての質問をきっかけに話が弾んだ。
- ・ 始まる前は、こちらの準備不足もあるので早く終わってしまうのではないかと予想していたのだが、予定の終了時刻までかかった。
- ・ チェックシートにも良かったとの感想だけでなく、少しずつ意見が書かれるようになってきた。

○説明した内容

- ・ 前回の委員会から2ヵ月弱。運動会・願書配布などドタバタしていたので、前回から変わったことや追加されたことなど多くはなかったが、新型インフルエンザが流行し始めた時期であったので、園としての新型インフルエンザへの対応についてと、前回説明しなかった個人面談で出た質問や要望事項(所定の様式[記名あり]で事前に提出していただく)についての回答について説明した。
- ・ また、以前より申請していた「園庭芝生化事業」の認可が下り、園庭の一部を芝生化したことを報告した。

⑤まとめ

今回、このプロジェクトに参加させていただいたことをきっかけに、自園の保育や運営について振り返ることができた。ややもすると『私立幼稚園は園児募集で保護者から評価を受けているのだから』、『建学の精神のもとに保育をしているのだから』と、運営についても保育につ

いても振り返ることがおろそかになりがちであるが、今回はとてもよいきっかけになった。

「自己評価」や「学校評価」にとりかかるにあたっては、イメージとしては分かっているつもりであったが、具体的には何をどのようにすればよいのか見当もつかずにいた(これに関わっていない一般の園長先生方はもっと分からないのではないかと思う)。本プロジェクトのガイドブック、文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン」、全日本私立幼稚園連合会「私立幼稚園版・学校評価ガイド」、近所の小学校の学校要覧などを参考にしながら自分なりに進めていった。

文部科学省版や小学校の学校要覧を見ていると難しく考えすぎてしまい、大層立派なものを作らなければいけないのではないかと腰が引けてしまう思いを感じた。全日本私立幼稚園連合会版は記入された公表シートの例がありとても参考になった。ガイドブックは文部科学省版を分かりやすく解説し、しかもカラー刷りだったので見やすくできていた。

研修DVD①「どんどこ？幼稚園」については、製作に携わった側として見ていた時はよくできていると思っていたのだが、一般の方の側から見ると、内容を欲張った分、専門的になり過ぎてしまったのではないかと反省している。

研修DVD②「学校評価」とは？」については、①とスライドの枚数はほぼ同じなのだが、私自身も含め評価委員の方々はこれから自分たちに直接関わってくる内容であるためか、①にも増して真剣に視聴していたようで時間も短く感じられた。

時間は長くなってしまいが、委員どうしが打ち解けあえるよう敢えて昼食懇談の時間を設けたが、雰囲気も和らぎとても良かったと思う。雑談を交えながら園長もいっしょに食事することで距離が縮まり意見を出しやすくなったようだ。

委員の人選については、「声をかけやすい人」をお願いをしたが、わざわざ口うるさい人を選んでゴチャゴチャ言われたくないという心理が働いたのが正直なところである。学校評価の意義を考えると「声をかけやすい人＝口うるさくない人」よりも意見を言ってくれる人を選ぶことが大事であろうが、今回、言える雰囲気をいかに作るかということを考え、昼食懇談の時間を設けたのは結果的に良かった。

最後に、学校評価が形式的なものであったり、せっかく始めたのに形骸化してしまうことのないようにするには、難しかったり面倒なものではなく、各園が取り組みやすいようなできるだけシンプルなものにしていただきたい。

子どもたちによりよい保育をするため、より良い幼稚園を目指すための学校評価であるが、学校評価をすることにエネルギーを費やし過ぎて、子どもの前ではヘトヘトということにならないよう願うものである。

(2) E 幼稚園

学校関係者評価委員会報告（設置から実施まで）

①はじめに

当園では、この調査依頼が来るまでは学校関係者評価に取り組んでおらず、実施しようと思っていましたが、きちんとした内容も把握していなかったため、取り組みが遅れていたのが事実です。

また、自己評価については保育者個人を評価するようで、取り組みをためらっていたようにも思います。今まで、幼児教育について子どもを十分理解し、日々の保育を行っているという思いもあり、なかなか先に進まない状態でもありました。今回学校評価並びに自己評価を始めたものの結果は期待せずに取り組みました。

②園の概要

S市の中心部から南西へ5kmほど離れた静かなK町の田園の中に位置しています。秋にはK川河川敷を中心にインターナショナルバルーンフェスタが開催され、100万人近くの観光客が訪れるバルーンの街として賑わいます。定員240名、在籍194名。園のあるK町自体の人口が少ないためS市内だけではなく、近くの市町からも通園しています。園庭には大小の木、季節の花々や実、虫たちなどの自然にあふれ、2つのプール、絵本の部屋、収穫が楽しめる畑など幼児期に触れてほしいと考える場を整えています。また、近くには緑いっぱいの森林公園や有明海の干潟などもあり、園内・園外を含め恵まれた環境の中で子ども達は伸び伸びと育っています。

③学校評価委員の人選について

- ・自治会長 ・公民館長 ・小学校校長 ・地域住民代表 ・PTA会長
- 計 5名

④評価委員会の実施

○第1回学校関係者評価委員会 7月28日(火)

- ・ 園長挨拶
- ・ 自己紹介
- ・ アンケート1の記入
- ・ 評価委員会の目的や活動予定の確認
- ・ 本年度の教育目標
- ・ 学園案内を配布し、E幼稚園の教育方針・教育主題について話す
- ・ 評価委員の方より質疑応答
- ・ DVD「どんなところ？幼稚園」の視聴
- ・ アンケート2の記入

〔委員会の様子と感想〕

○DVDを視聴した後、「初めて幼稚園教育やシステムについて理解出来た」という意見を頂いた

○当園の教育方針や教育目標に、賛同してもらい、次のような意見を頂くことができた。

- ・大人の関わりによって子どもは良い方向に育つので、環境がいかに大切であるかを痛感する
- ・地域行事への参加は、子どものみではなく、大人も参加し共に育つ教育は大事である
- ・今の子どもに欠けているのは体のバランス。この園の取り組んでいる水泳の取り組みに共感する
- ・自然教育の中で生まれる感性や、子ども同士の関わりの中で育つ心の教育を大切にする園の方針に賛同する

※・以上のようなご意見が聞かれ、幼稚園教育の目指すものがよく理解されたと感じた

- ・1回目の評価委員会で、保育者と子どもの関わりを実際に見て頂きたかったが、保育時間内に委員会を行うことが出来なかった。
- ・今後、保育の様子を見て頂けるよう、考えていきたいと思う。
- ・DVDの内容としては分かりやすかったが、時間的に少し長いように感じた。

○第2回学校関係者評価委員会

平成21年10月20日(火)

- ・園長挨拶
- ・現在の教育活動や園運営について
- ・DVD「「学校評価」とは？」を見る
- ・評価委員の方より質疑応答
- ・園の紹介DVD（入園説明会資料）を見る
- ・アンケートの記入

〔委員会の様子と感想〕

○保育の様子を見て頂く時間が取れなかったが、10月3日に行った運動会に招待して参観してもらった。

○入園説明会用に作成した園の紹介DVDを見て頂いたところ、話しだけでは十分に伝わらなかった自分達の思いがしっかりと伝わった様に思う

○第3回学校関係者評価委員会

平成21年12月17日(木)

- ・園長挨拶
- ・自己評価結果公表シートについて
本年度の重点目標について
今後の改善点

- ・評価委員の方より感想
- ・アンケートの記入

〔委員会の様子と感想〕

○3回目の委員会ということで、委員同士のコミュニケーションも深まり、よりよい教育が育まれるよう、活発な意見交換の場となった。また、自園の教育で今まで見えていなかった部分についても貴重な意見を頂くことができた。

- ・地域以外の園児が多い自園は、地域に密着した取り組みが少ないようだ。
- ・地域行事の中に園行事を組み込むなど、親子で参加する工夫をしていったらどうか。
- ・自由に伸び伸びと遊ぶ事を園の教育方針に掲げているが、その場を提供する側は、徹底した安全管理が絶対必要。その為には、チェックシートを基に、定期的な安全点検を行う必要があるのではないか。

⑤まとめ

今回、このプロジェクトに参加させて頂いたことをきっかけに、自園の保育や個人の教育目標に向かう姿勢について改めて振り返り反省する材料ができました。

「自己評価」「学校評価」については、イメージとしては分かっていたが、具体的に何をどのようにすればよいのか見当もつかない…と言うのが本音でした。

順序立てた計画を示して下さったことによりとても取り組みやすく、その結果園が発展する方向を目指して職員の意識が高まったと思います。

地域の方を中心とした学校評価委員の方に分かりやすく説明したDVD「どんなところ？幼稚園」や「学校評価とは？」を視聴してもらうことで、幼稚園のシステムや幼児をどう育てるのか、といったことが理解されたのではと思います。私達職員もこの2つのDVDを職員研修として活用し、幼稚園教育を再確認する意味でも今後の幼稚園の発展につなげていきたいと思います。また、評価委員の方とコミュニケーションをとることで幼稚園をより身近に感じて下さって、たくさんのご意見を頂きました。

その中で、評価委員の方より「幼稚園には入りづらい…」というご意見も頂き、私達が望む開かれた幼稚園という意味では、外部の人が気軽に声をかけられる幼稚園にはまだまだ達していないのが現実のようです。また、子ども達を地域の中で育てていくことがどんなに大切かという事を再確認させられました。

これから、学校評価を続けていく上で、評価委員の人選を毎年考えてたくさん意見を聞き、幼稚園がより良い方向に向かうために、学校評価を通して特色ある園を目指していきたいです。

(3) F 幼稚園

学校関係者評価委員会報告(設置から実施まで)

①はじめに

本園では、年1回、二学期末、あるいは三学期当初に保護者アンケートを実施し、その評価結果と自己評価について学校評議員会に報告をし、評議員より意見や提言をいただくようにしている。評価結果は、園だよりに掲載するだけでなく、2月には保護者対象に教育活動報告の機会を設け、幼稚園と家庭・地域が現状や課題について、共通理解を深め相互に連携し、教育活動を改善できるようにしている。

今回、このような学校関係者評価委員会の研修の機会に恵まれたことを契機として、園の重点目標を、教育活動、幼稚園運営、家庭・地域との連携を中心に振り返り、また、保護者アンケートの評価項目と評価指標についても見直すことにした。これまでの教育活動を振り返り保育の質の向上に向けて、よりよい学校関係者評価となるようにしていきたい。

②園の概要

本園はF市の旧市街地に位置しており、園周辺には文化財が多く、万葉集に歌われたS川の流域にあり、自然環境にも恵まれている。1952年10月F市立S小学校に私立幼稚園として開園され、1953年4月にF市立S幼稚園と改称された。

二年保育年少2学級(32名)・年長2学級(37名)(平成21年12月1日現在、合計69名在籍)、教職員は園長、主任、学級担任4名、業務吏員の7名である。園児はS小学校とSH小学校に分かれて就学する。園の教育目標は「明るく楽しく活力あふれる幼稚園」を掲げ、「子どもと親が一緒にきらきら輝く幼稚園」を目指している。

保護者は幼児の教育に熱心で、園の教育活動に対して協力的である。地域の方々は未就園児保育にボランティアで協力するなど、地域の教育に対する関心も高く本園の子育て支援を支えていただいている。

③学校関係者評価委員の人選について

本園では、地域代表4名の学校評議員は2年を任期とし、保護者代表の評議員は前年度のPTA会長を委嘱することになっている。そのため、平成21年度は地域代表の評議員は継続委嘱、保護者代表は新たな委嘱となっている。今回の研究協力にあたり、学校評議員に学校関係者評価委員を兼務していただくことにした。

○地域住民代表(S校区とSK校区から人選)

- ・園区の実情に詳しい地域有識者 男性(S校区)
- ・園区の実情に詳しい校区自治連合会事務局長 男性(SK校区)
- ・校区自治会長で私学学園長 男性(SK校区)
- ・園の実情に詳しい園歌作成に関わった元教員 女性(S校区)

○保護者代表

- ・前年度のPTA会長で、今年度、年長児の保護者 女性(S校区)

④学校評価委員会実施経過

- 6月12日(金) 園内研究会で保育公開、第1回学校評議員会を開催(9:00~12:00)

※来園者：学校評議員5名、S小学校長・SK小学校長、市教育委員会指導主事

《第1回評議員会の内容》

- ・クラス編制・園教職員の紹介
 - ・幼稚園の現状と教育課程、今年度の教育目標、指導計画、指導の重点、研究概要等について説明
 - ・幼・小連携推進についての研究計画（4年次）
 - ・10月末のF県幼稚園こども作品展(県で4会場で開催)の会場となる機会を活用した、保護者や地域の方への幼稚園教育の啓発
 - ・今年度10周年を迎える未就園児親子登園「子育てひろば・S」の活動報告
 - ・地域ボランティアによる「Sクラブ」の説明
- ☆「学校関係者評価委員の研修のあり方に関する研究」への協力依頼

○学校関係者評価委員会の開催計画立案

《学校関係者評価委員会開催にあたって園として心掛けること》

- 1) 調査研究アンケートだけでなく、公開保育の指導案を渡し、評価委員に幼稚園教育の内容について理解を深めてもらう。
- 2) 評価委員には保育中だけでなく、保育終了後（預かり保育・園庭解放）の状況も参観してもらい、子どもの実態と教員の役割についても考えてもらえるよう時間設定する。
- 3) 幼児教育への理解と認識を深めてもらうため、園の教育活動の取組について説明し、要覧や園だよりだけでなく各行事等の案内も配布するよう心がけ、多面的に情報を提供する。

○第1回学校関係者評価委員会（第2回評議員会）

平成21年7月15日(水) 出席：5名

☆この時点で学校関係者評価委員に「文部科学省委託研究へのご協力をお願い」の文書を手渡すとともに、評価委員としての資質の向上を図る目的で、DVD視聴やアンケート記入などの協力を依頼し、今後の研修の見通しについて話した。

☆評価委員会の様子

- ・評価委員の都合で事前アンケート1,2の実施を午前10:00~12:00(2名)・午後14:00~16:00(3名)の2回に分けて実施したため、DVDの視聴は無理なくできた。
- ・DVDがとても分かりやすく、幼稚園教育の基本について研修を深めることができた。
- ・アンケートは、慎重に時間をかけて読みながら回答していただいたようである。
- ・6月12日にすでに幼稚園の現状と重点目標などを説明しているので、園要覧や園だよりの内容についてのみもう一度報告し、一学期の取り組みの経過と二・三学期の計画について話した。
- ・評価アンケート1を実施後、感想を文章でいただいた。

【感想】

私の子ども時代の生活、幼稚園の経験のない者にとって現在のこどもの作品を見てその発想と作品に感心した。私どもの知らなかった幼児教育の大切さを痛感した。幼少時代、生活に追われ無関心、放任であったことを残念に思う。幼稚園の先生方の努力、誠実な行動には感謝の念でいっぱいである。

○第2回学校関係者評価委員会（第3回評議員会）

平成21年11月5日(水) 15:00~17:00 出席：5名

☆評価委員会の様子